ハイフンマイナスとは、ASCII 等にある、ハイフンにもマイナス記号にも使われる、意味合いの曖昧な記号を便宜的に Unicode ないし ISO/IEC 10646 で名付けたものです。

ASCII におけるハイフンマイナス

ASCII の記号「-」は、符号位置 2/13 にあります。16 進では 0x2D となります。これはハイフンにもマイナスにもどちらにも使われてきました。

JIS X 0201 におけるハイフンマイナス

JIS X 0201 のラテン文字集合には ASCII と同じく 2/13 にハイフンマイナスがあります。

JIS X 0208 におけるハイフンマイナス

JIS X 0208 では、ハイフン (文字名 HYPHEN) とマイナス (負符号 , 文字名 MINUS SIGN) それぞれに独立した符号位置を与え、例示字形も微妙に異なっています。

一方、ASCII のような「ハイフンにもマイナスに使われる符号位置」というのは存在しないため、コード変換を考えると一対一に対応しないことになります。

Unicode / ISO/IEC 10646 におけるハイフンマイナス

Unicode ないし ISO/IEC 10646 では文字に対して一意な名前を与えて、他の文字コード規格との対応づけを図っています。Unicode も JIS X 0208 同様にハイフンとマイナスそれぞれに独立した符号位置を割り当てています。ここで、ASCII をそっくりコピーしている Basic Latin ブロックにある U+002D に対しては、「ハイフンにもマイナスにも用いられる曖昧な記号」として、便宜的に HYPHEN-MINUS という文字名が与えられました。

JIS X 0213 におけるハイフンマイナス

JIS X 0213 では、既存のハイフンやマイナスとは別に、ASCII や Unicode の HYPHEN-MINUS にあたる文字が面区点 1-1-61 に追加されました。これにより、ASCII (ISO/IEC 646 国際基準版) や JIS X 0201 との変換で 2/13 にあたる文字を一意に定めることができます。

なお、EUC-JIS-2004 や Shift_JIS-2004 のように、HYPHEN-MINUS を含む 1 バイトコードとともに用いる符号化方式においては、JIS X 0213 の (2 バイトの) ハイフンマイナスは「FULLWIDTH HYPHEN-MINUS」という代替名称となります。